

平成24年度 学校自己評価システムシート（県立川口北高等学校）

目指す学校像	あらゆる教育活動をとおして、人に親切に、人を思いやる心を常に持ち、日本及び国際社会に貢献できる生徒の育成
--------	--

重点目標	1 学力の向上（満足度の高い生徒全員の進路実現） 2 体力・精神力の充実（人間としての在り方生き方指導の充実） 3 開かれた学校づくりの推進（中学校・地域へ積極的な情報発信）
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価（1月18日現在）			実施日 平成25年2月18日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	平成23年度、国公立大学受験者数119名、内合格者数25名。受験者数はここ数年右肩上がりである。難関私大の早慶上理大の合格者数は前年度より減。一方GMARCHの現役合格者は増大傾向にある。課題は①55分授業の一層の充実を図る②自学自習の姿勢を育み主体的かつ積極的な授業への参加を促すなど、分掌、学年、教科が一体となった組織的な指導の充実を図る。このことにより、生徒の進路実現についての質的、量的拡大を目指す。	○満足度の高い生徒全員の進路実現	①55分授業の内容充実とSL-Timeのさらなる効果的な活用 ②授業公開による研究協議の実施 ③分掌、学年、教科が一体となった組織的な進路指導・模試やセンター試験データ等の全教員による共有化・大学受験検討会の発展充実 ④土曜特別学習の充実 ⑤進学力グレードアップ推進事業の活用 ・グレードアップテストの実施・分析 ・外部研修への参加 ・専門家による講演会の開催	①55分授業とSL-Timeに係るアンケート評価の実施 ②全教科による授業公開と研究協議の実施 ③国公立大学受験者数180名現役合格者45名（埼玉大学合格者20名） ④土曜特別学習の参加状況を活用 ⑤グレードアップテストの結果分析を活用 ・外部研修参加者の報告と研究授業の実施 ・講演会を3回実施	生徒の希望に即した進路実現を概ね達成できた。 ①「主体的な学び」を目指し55分を有効に使うことができた。生徒は、自分の目標をもって、自主的に取り組めた。 ②全教科で「主体的・能動的な学びを促す授業」をテーマに研究授業を実施し、その後、教科会等で授業改善に関する情報交換を行った。 ③国公立大学現役合格者49名（埼玉大学13名）を達成した。 ④ほぼ全員の生徒が参加した。 ⑤結果分析による個別シートを生徒に配布し、弱点克服や家庭学習時間の見直し等について具体策を立てさせた。 ・外部研修会にのべ31人が参加し研究授業や補講等に役立てた。 ・講演会2回実施により、生徒は生きる意味、自立、社会貢献等について考えた。	A	①引き続き55分を有効に活用する。発達段階を考慮した内容等を検討する必要がある。 ②教務・進路指導・学年・委員会等の連携を密にして全校体制で一層の授業改善を進める。 ③大学入試に関するデータ分析、生徒の状況分析等を一層進め、組織的・効果的な進路指導となるよう改善する。 ④生徒のニーズ等を踏まえ、使用教材、講義内容やプリント、自学自習の取組姿勢等について改善する必要がある。 ⑤一層の効果をあげるため、個別シート活用方法や時期、講演会の内容・時期等を検討・改善する必要がある。	○数値目標を挙げているが、数値目標の達成のみの結果主義に陥らないようにしなければならない。 ○朝早く登校して、勉強している生徒が増えてきている。 ○学年ごとの講演会等の進路行事は、大変役に立った。
2	部活動加入率は90%を超え、文武両道を推進している。そこで、人間としての在り方生き方指導をさらに推進し、一歩前に踏み出す力、チームで働く力を養う。このことにより学力の向上とともに体力・精神力の充実を図る。	○人間としての在り方生き方指導の充実	①心身ともに鍛える部活動の推進と長期休業中の部活動前後の自学自習 ②スカート丈やベスト着用など服装、マナーの組織的・継続的な指導 ③知性あふれる明るいあいさつ指導 ④道徳教育の研究推進（道徳教育研究推進モデル校）	①長期休業中、全部活動で活動前後の自学自習 ②身だしなみ指導の励行 ③校内での知性あふれる明るいあいさつの励行 ④道徳教育全校行事等の実施	教員の共通理解の下、概ね指導にあたることができた。 ①多くの部活動で自学自習を実践した。 ②ベスト着用はほぼ良好であった。スカート丈では、意識の低い生徒も見られた。 ③大多数の生徒が校内外を問わず、あいさつを励行した。 ④基調講演2本の後、パネルディスカッションを実施した。生徒が自分のこととして考え、意欲的に参加した。	B	①生徒一人一人に高い意識をもたせ、自学自習させる必要がある。 ②スカート丈、交通マナーについては、学校教育活動全体を通じて、意識を高めさせる必要がある。 ③声の大きさやあいさつの仕方を改善する必要がある。 ④引き続き、生徒が他者を尊重し、個人の誇りある生き方を考えるよう計画・実践する。	○あいさつについては、先生や保護者も率先してあいさつする必要がある。
3	近隣中学校への学校情報のメール発信やホームページを通じた積極的な情報発信を行ってきた。今後も継続して実施する。平成24年度入試より学力検査が一本化したことにより、受検校の決定時期にずれが生じている。そのため、効果的な学校説明会の開催について見直しを図る。	○中学校・地域への積極的な情報発信	①ホームページによるタイムリーな情報発信 ②中学校への学校情報メール発信の拡大 ③学校説明会の充実、学習塾訪問の実施 ・1月に新たに説明会を実施 ・学校説明会の効果的な開催の検討（時期、内容、回数） ④保護者向けのメール一斉配信を積極的に活用	①ホームページのアクセス数25万回 ②メールによる学校情報の発信回数20回 ③学校説明会等への参加者合計10,000人 ④メール一斉配信の効果的な活用	情報発信の仕方を工夫・改善しながら、積極的に取り組めた。 ①アクセス数は約16万件、ホームページの一部をリニューアルした。 ②「川北キャンパス通信」として20回の情報を発信した。 ③1月に説明会を開催した。説明会参加者合計約2,800人、進学フェアにおける資料配付人数約6,400人、塾訪問による資料配付人数220人、合計約9,420人となった。 ④天候がはっきりしない中、体育祭開催についてメール一斉配信するなど効果的に活用した。	A	①アクセスの多いページを分析しホームページ上の配置・内容や更新頻度等を改善する。 ②見やすく、理解しやすい紙面作りを進めていく。 ③アンケート結果等を分析し、開催時期、説明内容・方法等情報発信全般を見直す。 ④登録方法や時期について、改善する必要がある。	○ホームページに様々活動の結果が掲載されているが、詳細が分かるようにした方が良い。 ○メール登録者数が7割というのは少ないのではないかと。登録数を増やす必要がある。 ○近隣中学校と部活動や生徒会活動で交流したらどうか。